

誇りのもてる仕事づくり 雇用管理の変化と

阿部 誠

大分大学
経済学部

最近、日本経済が上向いていることもあって、雇用情勢が改善されたといわれる。もっとも、今年2月の失業率は4.7%と依然として高い。とくに若者の失業率は11%(男子15~24歳)と高く、「ニート」も問題になっているので、雇用問題が解決したわけではない。しかし、2月の有効求人倍率は、0.97であり、新卒者の採用も拡大傾向にある。雇用情勢が従来にくらべて改善したこともたしかである。

しかし、新聞などでも指摘されるように、雇用が拡大しているのは、パートタイムや派遣労働者など主として非正規従業員である。とくに製造業では構内請負の労働者が増加している。昨年、長野県内の職安で行なった聞き取り調査でも、製造業の求人のうち4分の1から2分の1が構内下請けであるという。たしかに求人は量的にある程度確保されており、仕事がないという状況ではない。しかし、その中味をみると、こうした雇用の不安定な非正規従業員の仕事を中心とってよい。もちろん、パートタイム、派遣労働者など非正規従業員の仕事がすべて不安定であるわけではないかもしれない。しかし、職安での聞き取りでも、求職者本人が正社員ではない構内下請けなどの求人は避けたがるといわれている。実際に労働市場で求職活動をし、現場で働く人の感覚にとって構内下請けなどの職はけっして望ましいものではないのである。

私の住んでいる大分県では、近年、北部を中心に企業立地や大型投資が増加している。中津市にはダイハツ車体が新たに工場を建設し、昨年12月から操業しているが、1000人規模で雇用が増加したという。大分市内でもキャノンが新工場を建設しており、約1500人の雇用創出が期待されている。もっともダイハツ車体の場合は、群馬工場から多数の労働者が移転しており、地元での新規雇用は限られている。しかし、同時に進出した協力工場も含めて一定の雇用創出が期待されている。実際にも、県北地域では求人が増え、有効求人倍率が昨年未から今年はじめにかけて0.86~0.91程度まで上昇した。もっとも、それでも全国水準と同程度である。

いずれにしても、企業進出は地域に雇用をつくり出すとして歓迎されている。しかし、最近立地した企業の求人の多くは、実は構内下請けである。国東半島にあるキャノンの工場では、生産ラインの一部を全面的に外部委託している。大分市の新工場では正社員は3~4割で、残りは構内下請けの労働者といわれている。ダイハツ車体の場合も、新規雇用の多くが非正規従業員である。雇用の創出といっても、正社員が増加したわけではない。

これにたいして、地域に仕事がなく失業しているよりは、非正規雇用でも雇用があるだけいいという議論もある。最近の企業はフレキシブルな雇用管理をめざしており、雇用のアウトソーシングを進めているなかでは正社員の増加は期待できない。雇用管理が変わったのであれば、非正規従業員あっても雇用量を確保することが重要だという見方もある。

非正規従業員については、賃金格差や労働条件の問題、さらに雇用の不安定性などが問題として指摘されてきた。今日、非正規従業員が増大するなかで、そうした問題は一層先鋭になっている。しかし、問題はそれだけだろうか。正社員の仕事、非正社員の仕事と一概に決めつけられないにせよ、職があればどのような仕事も同じといえるのだろうか。

大分市内に「ざびえる」という菓子があり、おみやげ品などとして人気があった。しかし、これを作っていた長久堂という会社は、2000年に放漫経営から13億円の負債を抱えて倒産し、社員65人は全員が解雇された。しかし、「ざびえる」がなくなることを惜しむ声が地域に広がったのをうけて、長久堂に勤めていた社員たちが銘菓「ざびえる」の復活に立ちあがった。2001年早々に元社員が1000万円の資本金を出し合って8人で新たにザビエル本舗をスタートさせた。そして、機械を購入し、商標を借りて「ざびえる」の生産をはじめた。商工会議所や地元の協力もあり、その売り上げは急速に伸びていった。2002年には「瑠異沙」も復活させ、2年目で4億円の売り上げをあげ、経営は順調にいつている。

倒産企業に勤めていた元社員がおこしたザビエル本舗は、協同組合経営ではないし、労働組合の自主経営などとも異なっている。しかし、興味深いのは、社員が自分たちのつくっていた菓자에誇りをもち、それを復活させようとしたことである。仕事への誇り、これが元社員の会社づくり、仕事づくりを支えたのである。

誇りをもてる仕事をしたいというのは、働く者の多くが感じていることではないだろうか。もちろん正社員だけでなく、パートタイムなどのなかにも仕事に誇りをもっている人もいるだろう。しかし、職場で正社員と区別され、短期契約だったり、いつ解雇されるかわからない状態にあって、誇りをもって仕事をできる人がどれだけいるだろうか。職があればすべて同じではない。誇りをもって仕事のできる職場づくりが重要である。非正規従業員の増加には、この点で問題がないのだろうか。